

(4,000円)

実用新案登録願 (4)

昭和 56年 5月 19日

G02C

特許庁長官殿

1 考案者
メメ
眼鏡

2 考案者

住所 大阪府門真市大字門真1006番地
松下電器産業株式会社内

氏名 アズマ
東 久
國 ノリ



3 実用新案登録出願人

住所 大阪府門真市大字門真1006番地

名称 (582) 松下電器産業株式会社

代表者 山下俊彦

4 代理人 T 571

住所 大阪府門真市大字門真1006番地

松下電器産業株式会社内

氏名 (5971) 弁理士 中尾敏男

(ほか1名)



【連絡先 電話(06)437-1121 特許分室】

5 添付書類の目録

- ・(1) 明細書
- ・(2) 図面
- ・(3) 委任状
- ・(4) 願書副本

方審式査
本問



1
1
1
1
通
通
通
通

67

56 072983

184910

明細書

1、考案の名称

眼鏡

2、実用新案登録請求の範囲

フレーム付眼鏡において、レンズを嵌着するフレームの縁部に永久磁石を設置してなる眼鏡。

3、考案の詳細を説明

本考案は眼鏡の改良に関するもので、例えば近視用眼鏡に防眩用あるいは溶接時の保護用眼鏡等をその使用目的に応じて磁石の吸引力を利用して着脱可能とし、フレームの縁部に永久磁石を設置した眼鏡単独での使用またはこれらを一体化してその使い勝手をよくすることを目的とする。

従来、近視用眼鏡と防眩用サングラスを一体化した複合式眼鏡を構成するための手段としては、図示していないがいずれか一方の眼鏡のフレーム部分あるいはレンズの縁部分に眼鏡保持用の金具が設けられていて、該金具により眼鏡相互間を保持固定していた。この場合、保持用の金具がフレームまたはレンズから突出した状態で用いられる

ため、金具の突出部分が物に接触して該保持用金具の破損を招いたり、変形させたりして一体化のための本来の保持機能をなくする可能性があった。

本考案に係る永久磁石式の眼鏡相互の保持手段によれば、上述したような欠点は完全に解消できるものである。以下本考案に係る実施例として、第1図に示すフレーム付眼鏡に対して第2図に示す防眩用のフレームレスサングラスを保持固定する場合について述べる。レンズ1を嵌着したフレーム2の縁部に一定間隔をおいて複数個の永久磁石3が埋設されている。この永久磁石3の位置に対応するフレームレスサングラス4の周縁部には該永久磁石3の磁力により吸引される金属5、例えば鉄またはクロムが埋設されている。6は耳かけ部分を形成するフレームである。使用に当って複合式眼鏡とするには第1図に示す普通のフレーム付眼鏡のうえに、第2図に示すフレームレスサングラス4を永久磁石3と磁性金属5との磁力吸引力により容易に吸着固定することができる。これにより従来の如く保持用金具のフレーム外への

突出は生じなく、普通のフレーム付眼鏡にフレームレスサングラスを安全に固定せしめることができ、眼鏡とサングラスとによる複合効果が得られるものである。更に吸着部材としての永久磁石の磁力線による目に対する医療効果も合わせて得られるものであって、利用価値の高い眼鏡を提供するものである。

4、図面の簡単な説明

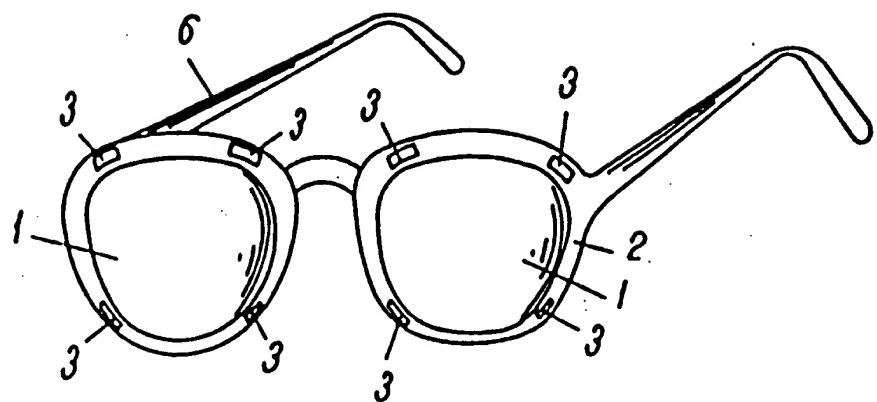
第1図は本願考案に係る永久磁石を設置したフレーム付眼鏡の斜視図、第2図は第1図のフレーム付眼鏡に固定される磁性金属を設けたフレームレスサングラスの斜視図である。

1 ……レンズ、2 ……フレーム、3 ……永久磁石、4 ……フレームレスサングラス、5 ……磁性金属、6 ……耳かけ部分を形成するフレーム。

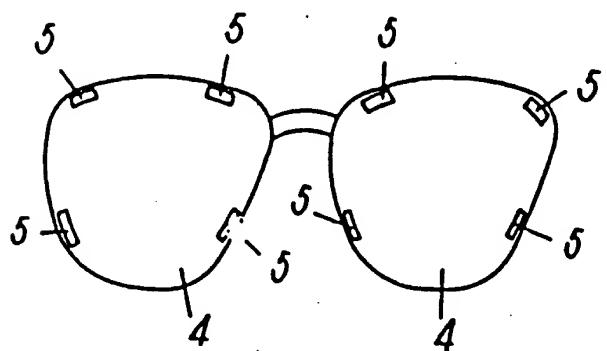
代理人の氏名 弁理士 中尾敏男 ほか1名



第1図



第2図



155610

代理人の氏名

弁理士 中尾敏男

71

ほか1文

6 前記以外の代理人

住 所 大阪府門真市大字門真1006番地

松下電器産業株式会社内

氏 名 (6152) 弁理士 粟野 重孝

72
184910